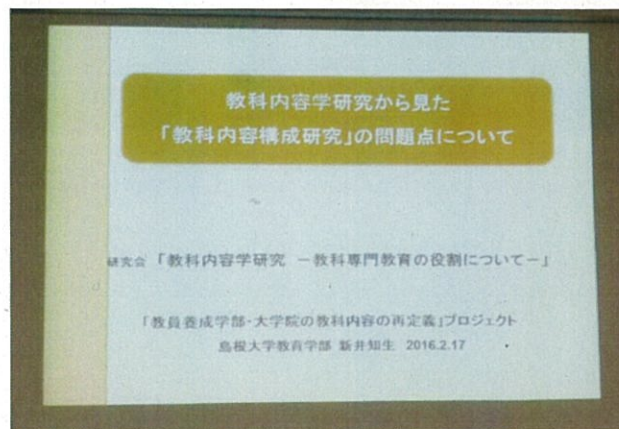


平成27年度学部長裁量経費報告書

プロジェクトの名称	教員養成学部・大学院における教科内容領域の再定義
プロジェクトの概要	本プロジェクトは2013年に発足し、今年で3年目になる。過去の2年で、教科内容領域の改革の取り組みとしては、教科内容学の権威を招いての講演会や、報告会等を開催し、その研究成果を、メンバーがいくつかの論文を発表するとともに、教職大学院での教科内容学系授業の作成に関与・貢献した。また教科専門教員による教育と業務の検証として、「音楽連携推進室」や「環境寺子屋」などの山陰地域の教育委員会や教育文化施設などと連携した教育活動の報告会などを開催し、その意義や役割を検討した。 今年度、活動の締めくくりの年度として、今までの成果をもとに、学部紀要に論文発表をするとともに、プロジェクトメンバーによる研究会を開催し、本学部・大学院の教科内容研究についての研究報告や問題提起、また教科専門教員の在り方についての検討を行う。
プロジェクトの実施状況	3年の継続した研究活動を総括して報告する。 1. 教科内容学研究－研究会の開催 教科内容学の先導的な存在である、竹村信治広島大学大学院教授、松岡隆鳴門教育大学教授の講演会の開催等を通して教科内容学研究を深めた。それらの成果を、今年度はプロジェクトメンバーの発表による研究会で提示し、教科専門教員による専門授業を、教科内容学の立場から総括した。 今年度の研究会では「教科内容学研究－教科専門教育の役割について」と題して、当プロジェクトメンバーの3名が、それぞれ「教科内容構成研究の問題点」「日本古典文学教材における教科内容学からのアプローチ」「ヨーロッパにおける歴史教科の教員構成」について発表した。 出席人数：11名 (2016. 2. 17) なおこの研究会は第10回FD研修会となっている (FD研修会) 「教員養成学部における教科内容領域の再定義」プロジェクト研究発表会 研究会のご案内 教科内容学研究－教科専門教育の役割について－ 「教員養成学部における教科内容領域の再定義」プロジェクト（2013年度発足）は、教科内容学の権威を招いての講演会や、報告会等を開催し、その研究成果を、メンバーがいくつかの論文を発表するとともに、教職大学院での教科内容学系授業の作成に関与・貢献した。また教科専門教員による教育と業務の検証として、「音楽連携推進室」や「環境寺子屋」などの山陰地域の教育委員会や教育文化施設などと連携した教育活動の報告会などを開催し、その意義や役割を検討した。 今年度、活動の締めくくりの年度として、今までの成果をもとに、学部紀要に論文発表をするとともに、プロジェクトメンバーによる研究会を開催し、本学部・大学院の教科内容研究についての研究報告や問題提起、また教科専門教員の在り方についての検討を行う。 出席人数：11名 (2016. 2. 17) なおこの研究会は第10回FD研修会となっている 研究会 －教科内容学研究－教科専門教育の役割について－ 日時 平成26年2月17日(水) 16:00-17:30 場所 217 研修室 1. 開催 2. 報告①「教科内容学研究から見た『教科内容構成研究』の問題点」 報告者 松岡隆 報告②「教科内容構成研究の問題点」 報告者 竹村信治 報告③「ヨーロッパにおける歴史教科の教員構成」 報告者 山本浩一 3. 討議 4. 閉会 主催 教員養成学部・大学院における教科内容領域の再定義プロジェクト (竹村信治、松岡隆、山本浩一、山本浩一、山本浩一、山本浩一) 共催 山陰大学 教員養成学部 (Co-Organized by Faculty of Education)



詳細については教育学部附属FD研修センターHP:研究会報告「第10回研究会を開きました」参照

http://www.edu.shimane-u.ac.jp/fd/fd_kensyukai/27rireki/s2016.2.17.html

2. 教職大学院授業科目「現代的課題に対応した授業デザイン」シラバスの作成協力

昨年度から教職大学院設置準備委員会からの付託を受けて、教科専門教員が担当する授業科目の内容について検討していたが、その後当プロジェクトメンバーの2名が「授業デザインWG」に加わり、今年度「現代的課題に対応した授業デザイン」シラバスを作成した。

3. 教科専門教員による教育と業務の検証

学部内の教科専門教員の社会的、教育的活動状況を調査し、その活動が顕著だった団体また個人に対し、発表をする機会を設け、その意義や役割を検討した。それらのプロジェクト主催の研究会を通して教科専門教員の今後の活動の在り方の可能性について提起した。

4. 論文発表

当プロジェクトの活動の成果を論文として発表した。全部で4編にのぼるが、今年度発表されたものは次のとおりで

	ある。 ○新井知生「『教科内容学』研究の成果と課題－教員養成カリキュラムにおける教科専門の授業の在り方を中心に－」 島根大学教育学部紀要 第49巻 P. 27-36 平成27年12月 ○榎原茂「(研究動向) ヨーロッパにおける歴史教育と教員養成－歴史・シティズンシップ教科の教員養成に関する広域調査を通してみる－」 中国四国歴史学地理学協会年報 第12号 P. 59-68 2016年3月		
プロジェクト組織 ※プロジェクトの代表者は、氏名横に○を付す	所属・職	氏 名	専門分野
	教育学部・教授 教育学部・教授 教育学部・教授 教育学部・教授 教育学部・教授	○新井 知生 榎原 茂 福田 景道 高橋 哲也 富竹 徹	絵画 西洋史学 古典文学 被服学 数学教育
本プロジェクトにより期待される効果 (成果の公表方法を含む)	1. 本学部の教科内容領域においての特色を打ち出した研究として、その先駆性・独自性をアピールできる。 2. 学部内の複数の研究グループと連携することによって、FDを進めることができる。 3. 成果は論文として研究紀要に発表する他、研究会も開催し発表する。また報告書にまとめて公表し、学部ホームページに掲載する。		